

国内企業の DX 動向・AI 活用動向のポイントを公開
広がる AI 導入、DX は変わるか

独立行政法人情報処理推進機構（IPA、理事長：齊藤裕）は、国内企業に対して毎年実施している DX 動向調査における DX の取組とその成果、AI 活用動向、人材育成などについて調査した結果のポイントを公開しました。本調査から、国内企業における DX は普及し、AI 導入は広がっている一方、業務効率化の段階から新たな価値創出やビジネス変革へと発展させることが今後の重要な課題であることが示されました。

<https://www.ipa.go.jp/pressrelease/2026/press20260716.html>

■背景

IPA では、国内外企業の DX に関する状況や課題等を把握し、公表することを目的に「DX 動向調査」を実施しています。本年 4 月から 6 月まで国内企業に対して 2025 年度調査を実施しましたので、DX の取組や成果、AI やデータの利活用、人材育成などについてポイントを公表します。なお、より詳しい調査結果を掲載した「DX 動向 2026」報告書およびデータ集を、2026 年 7 月下旬に公開予定です。

■概要

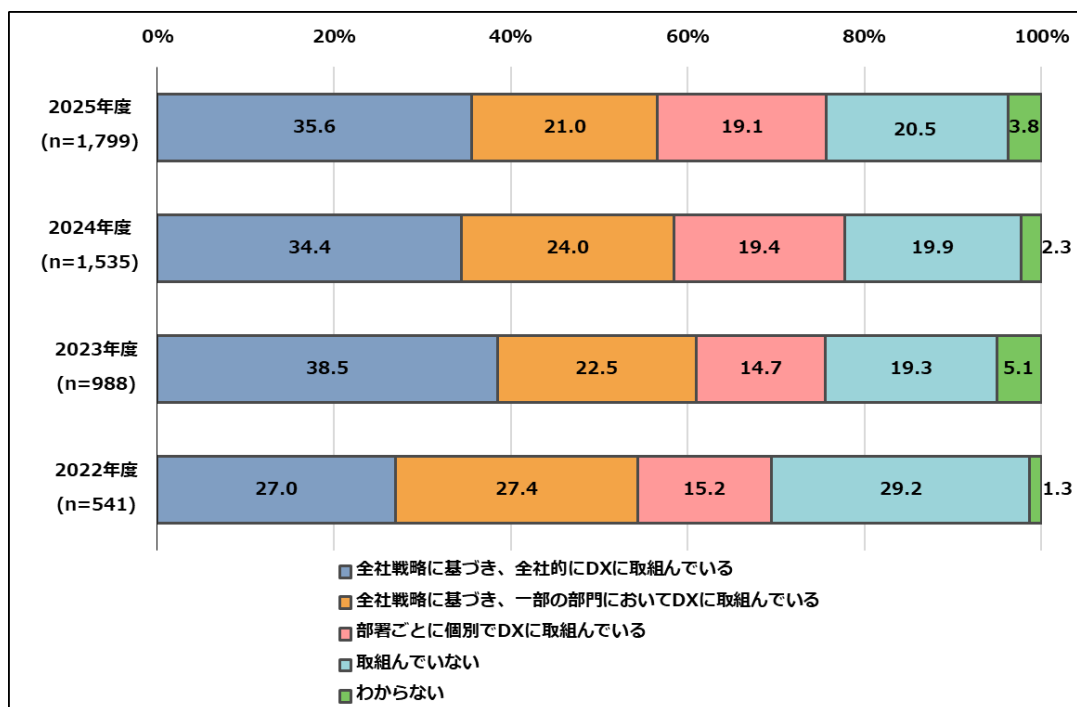
本調査の結果、DX に取組む企業の割合および成果が出ている企業の割合は前回調査と同水準でした。DX の取組内容別の成果の割合については、データのデジタル化や業務の効率化などが高く、企業価値創出につながる内容では低い状況であり変化がありません。AI 導入は大企業を中心に広がり、多くの企業で効果が実感されているものの、期待どおりや期待以上の効果の割合は限定的です。また AI の利用用途や効果の具体的な内容は業務効率化・迅速化が中心となっています。

以上のように、DX の成果の内容は業務効率化などに関する項目で高く、企業価値創出につながる項目では低い状況が続いています。また AI は導入が広がっているものの、その活用はやはり業務効率化・迅速化が中心となっており、企業価値創出への展開は限定的な状況にあることが明らかになりました。

1. DX の取組状況

DX に関しては、8 割近くの企業が何らかの形で DX に取組んでいます。過去 2 回の調査と経年比較すると、何らかの形で DX に取組んでいる企業の割合はほぼ同水準で推移しています。取組の各項目の割合にも大きな変化は見られず、DX の取組割合や取組形態は一定の水準で推移しています。

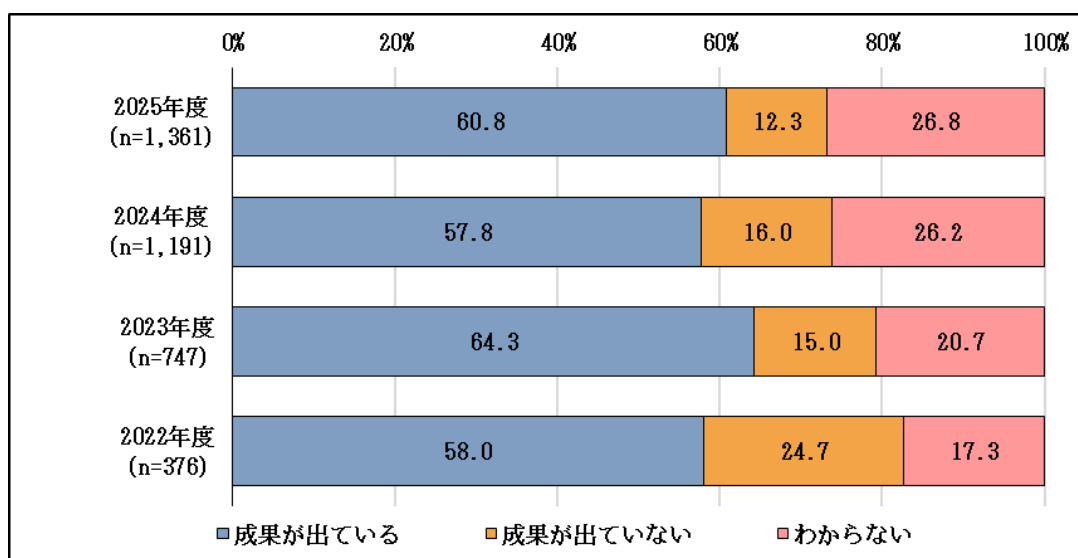
図表 1 DX の取組状況（経年比較）



2. DX の成果

DX の取組において、設定した目的に対する成果が出ているかを尋ねたところ、6 割の企業は「成果が出ている」と回答しています。過去 2 回の調査と経年比較すると、「成果が出ている」の割合に大きな変化はなく、DX の取組成果の割合は概ね同水準で推移しています。

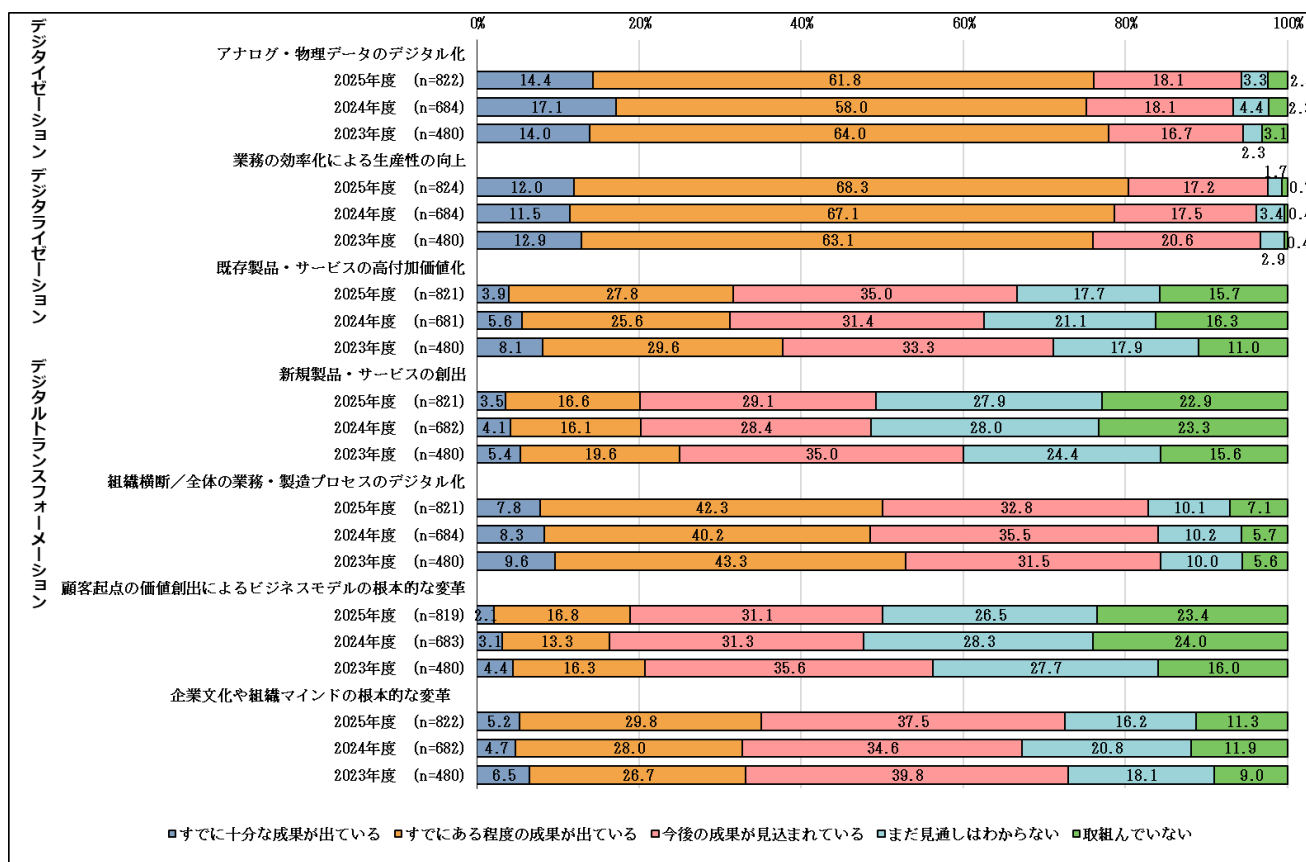
図表 2 DX への取組成果（経年比較）



3. DX の具体的な取組項目別の成果

DX の具体的な取組項目別の成果状況では「アナログ・物理データのデジタル化」や「業務の効率化による生産性の向上」が他の取組項目と比べて「すでに十分な成果が出ている」「すでにある程度の成果が出ている」とともに高い回答割合となっており、経年比較でも高い水準を維持しています。「組織横断／全体の業務・製造プロセスのデジタル化」「顧客起点の価値創出によるビジネスモデルの根本的な変革」「企業文化や組織マネジメントの根本的な変革」といったデジタルトランスフォーメーションの段階の項目については前回調査よりもわずかに伸びていますが、デジタル化や業務効率化に比べると相対的に低い割合となっています。

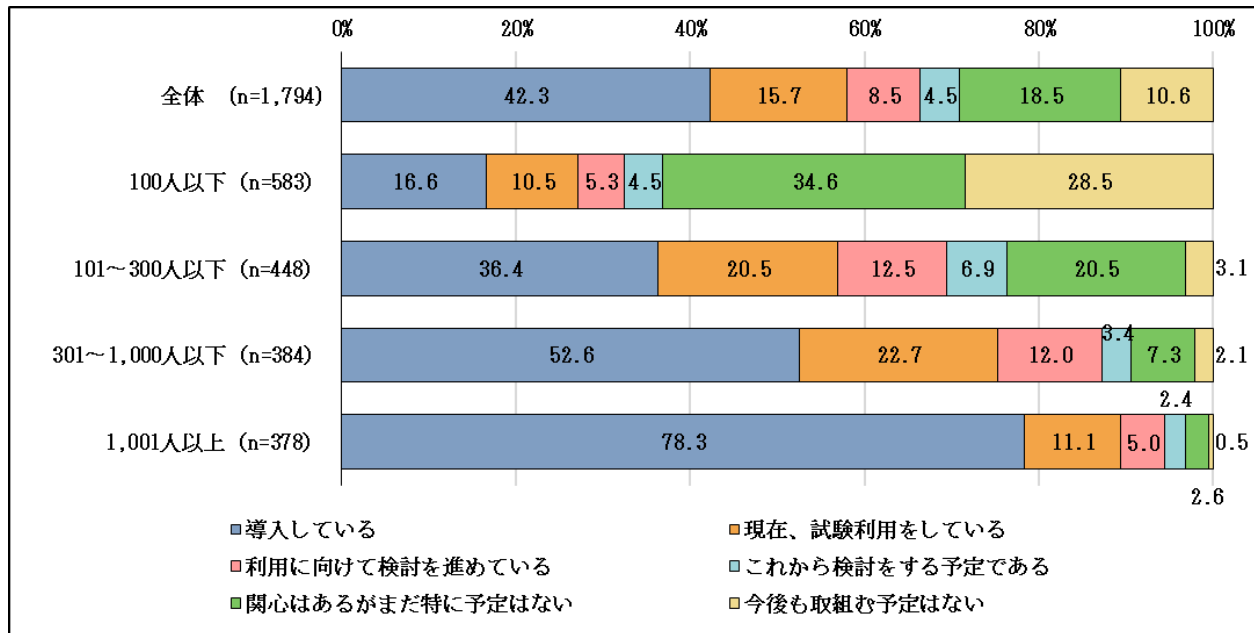
図表 3 DX の具体的な取組項目別の成果状況（経年変化）



4. AI の導入状況

AI の導入状況を従業員規模別に見ると企業規模が大きくなるほど導入が進んでいる傾向があります。「1,001 人以上」の企業で 8 割近くが導入している一方、101 人以下の企業では 16.6%であり、従業員規模で導入割合の差が見られます。

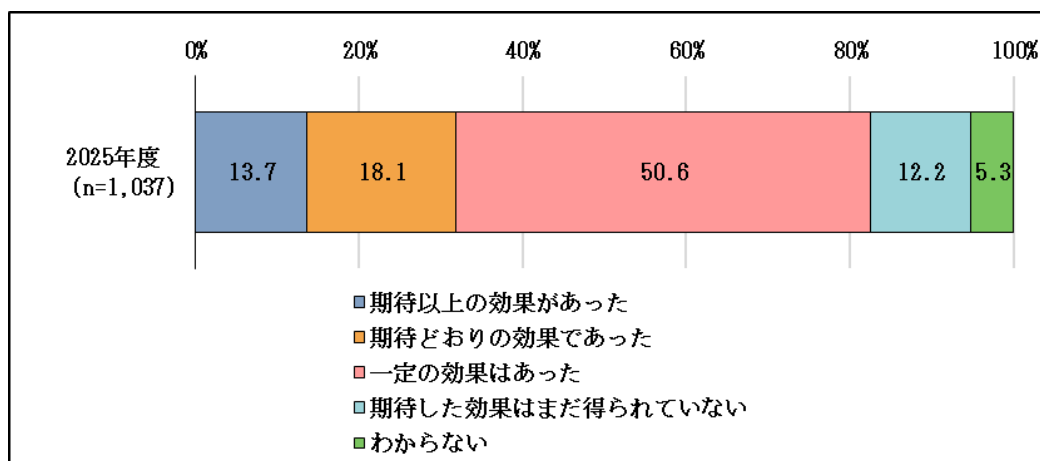
図表 4 AI の導入状況（従業員規模別）



5. AI 導入による効果

AI 導入による効果の状況を見ると、「期待以上の効果があった」「期待どおりの効果であった」の合計は31.8%でした。「一定の効果はあった」は 50.6%と最も高く、多くの企業で AI 導入による効果が得られています。

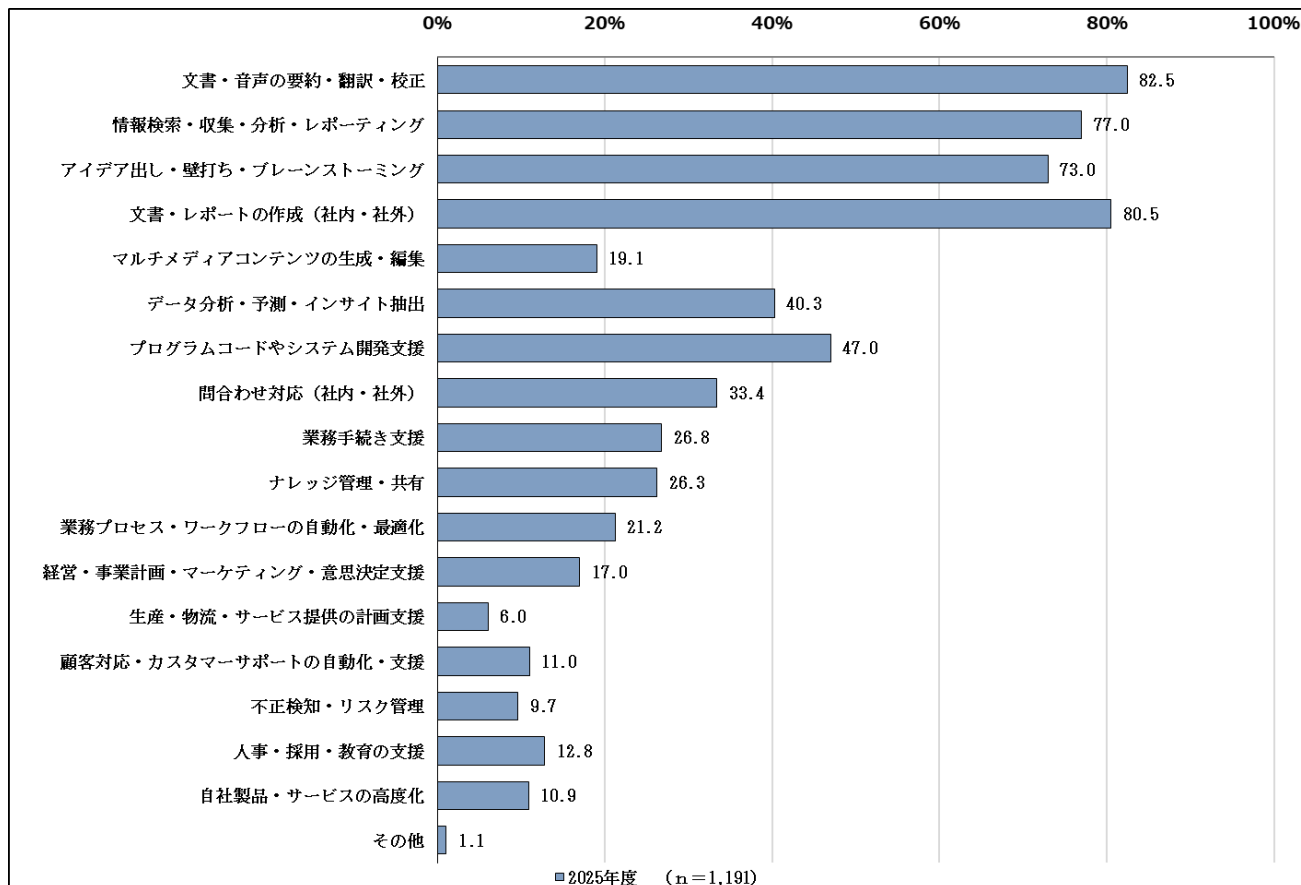
図表 5 AI 導入による効果の状況



6. AI の利用用途

AI の利用用途を見ると「文書・音声の要約・翻訳・校正」が 82.5%と最も高く、次いで「文書・レポートの作成（社内・社外）」が 80.5%、「情報検索・収集・分析・レポートニング」が 77.0%となっており、文書作成や情報収集など、業務効率化を目的とした用途が中心となっています。これに対して「生産・物流・サービス提供の計画支援」は 6.0%、「自社製品・サービスの高度化」が 10.9%であるなど、事業の高度化や新たな価値創出につながる用途の回答割合は業務効率化等と比べて低くなっています。

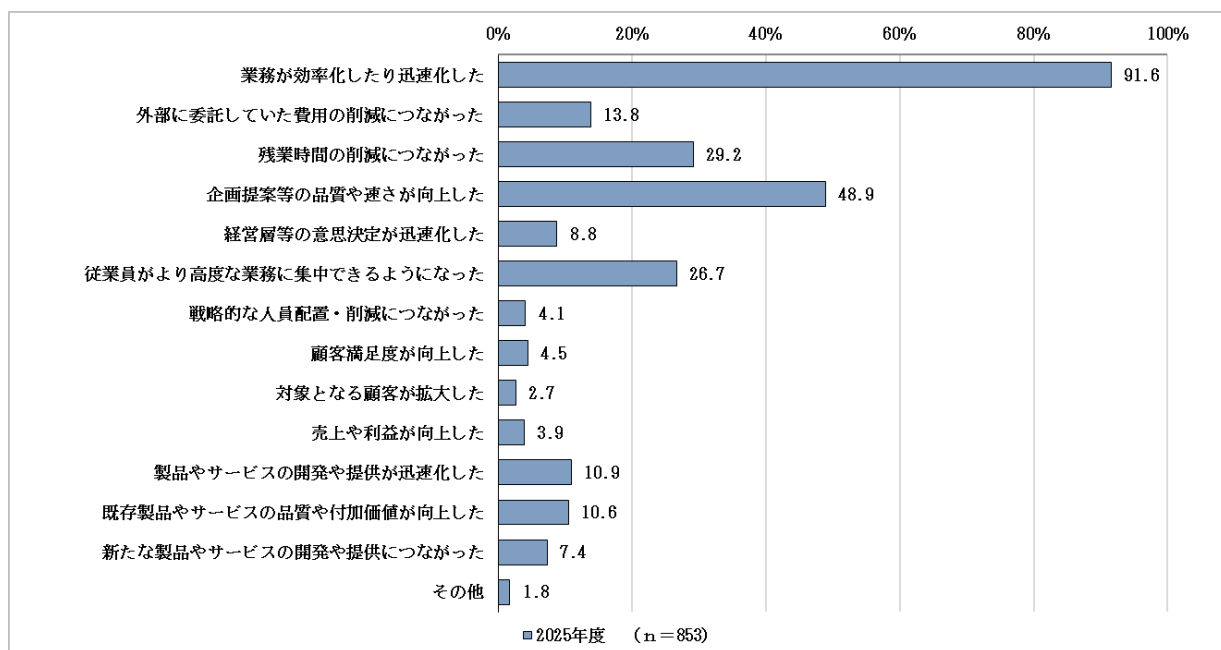
図表 6 AI の利用用途



7. AI 導入による具体的効果

AI 導入による効果の内容を見ると、「業務が効率化したり迅速化した」が 91.6%と最も高く、次いで「企画提案等の品質や速さが向上した」が 48.9%、「残業時間の削減につながった」が 29.2%となっており、効果の中心は業務効率化・迅速化となっています。これに対して「顧客満足度が向上した」は 4.5%、「対象となる顧客が拡大した」は 2.7%、「売上や利益が向上した」は 3.9%であるなど、企業価値創出に関連する効果の回答割合は数%台となっています。

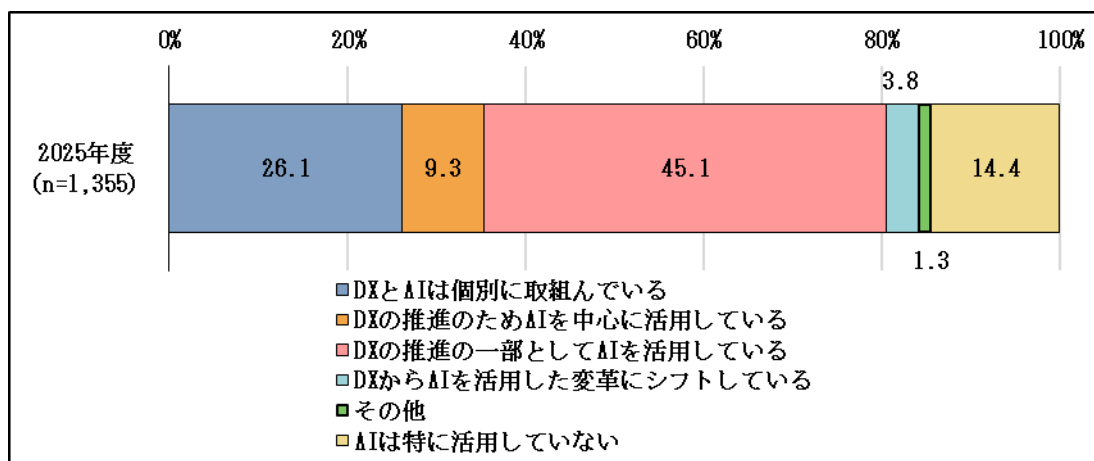
図表 7 AI 導入による具体的効果の内容



8. AI 利活用の位置づけ

AI の利活用の DX 推進に対する位置づけを尋ねた結果を見ると、「DX の推進の一部として AI を活用している」と「DX の推進のため AI を中心に活用している」の合計は 54.2%となっており、DX に取組む企業の半数以上が AI を DX 推進の手段として位置づけています。なお、「DX と AI は個別に取組んでいる」企業も DX に取組む企業の 1/4 を占めています。

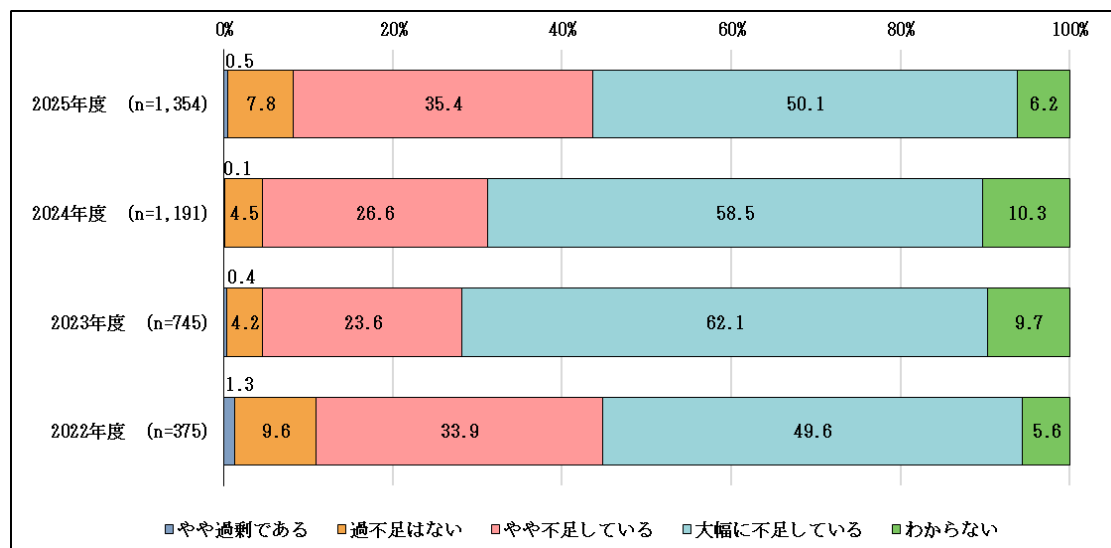
図表 8 DX 推進に対する AI 利活用の位置づけ



9. DX を推進する人材の過不足状況

DX を推進する人材の「量」の確保状況を経年で見ると、「やや不足している」「大幅に不足している」の合計は85.5%であり、2024 年度、2023 年度とほぼ同じ水準です。

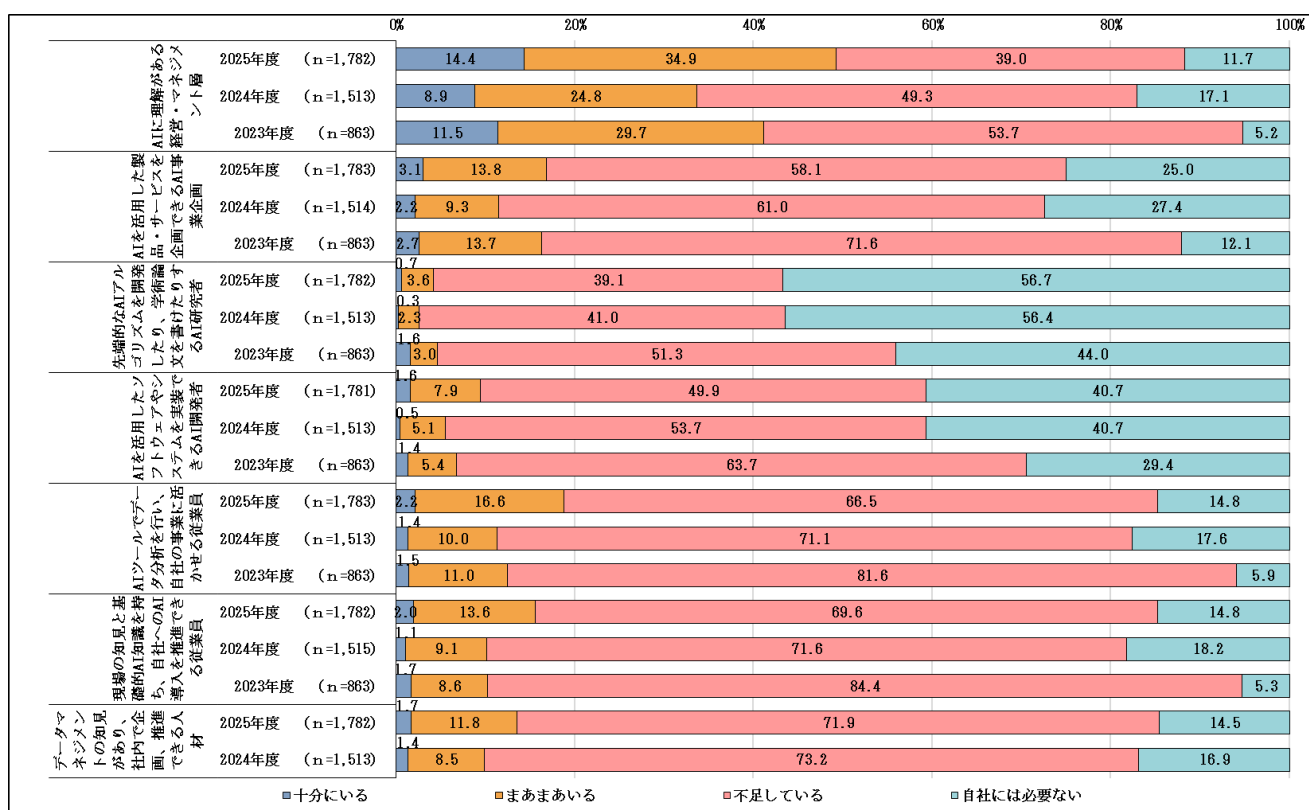
図表 9 DX を推進する人材の「量」の確保（経年変化）



10. AI 関連人材の過不足状況

AI 関連人材の充足状況を経年で見ると、多くの人材種別において「不足している」が過半数を占めています。「AI に理解がある経営・マネジメント層」および「AI ツールを活用して、自社の事業に活かせる従業員」の「不足している」割合が他と比べて減少しているものの、「現場の知見と基礎的 AI 知識を持ち、自社への AI 導入を推進できる従業員」「データマネジメントの知見があり、社内で企画、推進できる人材」とともに、不足しているとの回答割合は高いままです。

図表 10 AI 関連人材の充足状況



このほか、本調査では、DX の成果指標、企業文化と風土、データの利活用や連携状況、AI の導入・運用課題、DX を推進する人材のスキル把握状況などについても分析し、報告書として取りまとめています。また過年度調査と同じ設問については経年比較を行い、100 ページ超のデータ集をあわせて公開します。

IPA は本調査結果が DX に取組んでいる企業、あるいはこれから取り組もうと考えている企業の参考となり、企業価値向上や競争力強化につながる DX 推進の一助となることを期待しています。

■調査概要

- ・調査対象：国内企業の経営層、情報システム部門、DX 推進部門 等
- ・回収数：1,799 社
- ・調査実施期間：2026 年 4 月 17 日～2026 年 6 月 12 日

■今後の予定

- ・2026 年 7 月下旬に本調査結果をまとめた「DX 動向 2026」報告書およびデータ集を公開予定です。
- ・2026 年 8 月 5 日（水）に本調査結果に基づくウェビナーを開催します。内容および参加方法は以下の URL をご覧ください。

「DX 動向 2026 説明会」

.....

<https://www.ipa.go.jp/event/2026/20260805.html>

■参考情報

過去の調査結果

・DX 動向 2025

<https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/dx-trend-2025.html>

・DX 動向 2024

<https://www.ipa.go.jp/digital/chousa/dx-trend/dx-trend-2024.html>

■本件に関するお問い合わせ先

IPA 経営企画センター 国際・産業調査部 産業調査室 小沢・河野

E-mail: ga-ra-dxwp@ipa.go.jp